

I. 平成 29 年度 第4回 新河岸川流域川づくり連絡会 議事要旨

平成 30 年 2 月 26 日 (月) 朝霞市 産業文化センター 研修室兼集会室第 3

I. 平成 29 年度第 3 回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨

平成 29 年度第 3 回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨が承認された。

II. 新河岸川流域川づくり連絡会活動協議事項

1. 前回議事の対応

- ・ 発表会前半では、黒目川流域川づくり懇談会から 1 名、和光自然環境を守る会から 1 名選出し、発表会後半では、不老川流域川づくり市民の会から 2 名選出した。
- ・ 試行的に第 4 回連絡会を 18:00 開催とし、来年度の連絡会の開催時刻については、第 4 回連絡会にて協議する。

2. 平成 29 年度新河岸川流域川づくり連絡会の活動を振り返って

■主な意見など

<現地見学会について>

- ・ 各見学地点に滞在する時間が少なかったため、来年度は見学地点数の見直しなどにより滞在時間を増やす工夫が必要だと思う。

<発表会について>

- ・ 今年度は所沢市の公共施設における開催案内チラシの配架や、各戸配布の広報誌を用いた開催案内を行ったが、川づくり団体関係者や発表者の参加が主であった。来年度は更に人を集めるために、開催案内の工夫が必要だと思う。
- ・ 小学校の参加誘致について、両親の許可を取り付けることや発表会当日の引率による教職員の負担などの問題があるため、参加依頼の方法を検討する必要があると思う。
- ・ 小学校が参加する際には、小学校の施設（体育館など）を会場とすることができるとよい。
- ・ 多くの参加者を募るため、来年度の会場はできるだけ駅に近い場所を選定することができるとよい。

<交流会について>

- ・ 昨年に比べ交流会の時間を多くとれたのがよかった。来年度以降も全体企画や発表校数を調整し、時間を十分に確保できるとよい。

■決まったこと

- ・ 発表会の開催時期は例年どおり、発表会参加候補校と開催候補会場の日程を優先し、調整する。
- ・ 小学校が参加する際は、会場を当該小学校の施設とし、調整がつかない場合は別の会場とする。

3. 平成 30 年度新河岸川流域川づくり連絡会の活動に向けて

■主な意見など

- ・ 自治体担当者には連絡会議事要旨を付記した連絡会開催案内文を送付するなど、連絡会の活動状況の共有に努めているが、担当者変更時の引き継ぎ不足などで連絡会のことを認知していない自治体担当者がいると思う。
- ・ 自治体担当者が連絡会に参加し難い要因の一つとして、連絡会の開催時間が業務時間外であることが挙げられるため、連絡会を自治体担当者の業務時間内（夕方まで）に行うことができるとよい。

■決まったこと

- ・ 来年度以降、発表会はこれまで発表会を実施していない自治体を開催地とし、近々 3 年間については、平成 30 年は清瀬市、平成 31 年は東大和市または武蔵村山市、平成 32 年は新座市を開催予定地とする。
- ・ 今後、開催地となる自治体には、3 年間（発表会の前年度、発表会開催年度、発表会の次年度）の連絡会および発表会への継続的な参加を要請する。
- ・ 来年度の第 1 回連絡会の開催日時は、メーリングリストとはがきで、連絡会メンバーの意向を伺った上で、日時の決定および案内を行う。

III. 勉強会

「身近な水環境の全国一斉調査の水質分析結果から見た新河岸川流域の地域特性 (6) B」と題し、法政大学水文地理学研究室による説明後、意見交換を行った。

■主な意見など

- ・ 昨年、東京都による河川の水質類型の見直しが行なわれ、空堀川が E 類型から A 類型に上がったが、空堀川の EC が依然として高いため、引き続き水質データを調査していく必要があると思う。
- ・ 水質類型の評価項目だけでは評価しきれない事項もあるため、EC を当該評価項目に加えることなどを検討すべきだと思う。

■今後の活動について

- ・ 法政大学水文地理学研究室では、新河岸川流域の一斉調査データが 5 年分蓄積できたため、学会誌などにおける調査成果の発表を予定している。

IV. 情報交換

◆平成 30 年度第 1 回新河岸川流域川づくり連絡会開催について

- ・ 平成 30 年 5 月末頃に開催予定とする。